

花一会図書館便り

8・9月号（令和3年9月1日発行）

【TEL&FAX】

0186-57-6085

【MAIL】

hanaichie@voice.ocn.ne.jp

花一会ホームページ



Facebook



Instagram



Twitter

新連載

「郷土探索への道 黒沢温泉編①」

蘭越にあの有名作家の友人がいた！！

今年1月北海道立文学館より、「蘭越町にかつて存在していた黒沢温泉廃業後の場所に隠棲していたという、黒沢龍雄という人物のことを調べていて、黒沢温泉の正確な場所を地図上で知りたい。」というメールをいただきました。スタッフ一同、黒沢温泉という名前を聞いたことがありません。『蘭越町史』を調べてみても、黒沢温泉の記載はあったものの正確な位置は分からず。Google mapで調べてみるとそれらしい建物を発見。しかし町史によると黒沢温泉は昭和49年に建物が焼失しているとのこと。

これ以上調べるのは難しいか…と諦めかけたとき、スタッフの一人が「黒沢温泉があった場所に住んでいる人なら何か知っているのでは？」と一言。早速近くに住むNさんへ連絡を取ってみることに。なんとNさんは黒沢龍雄氏と面識があり、温泉跡地を案内していただけるとのご返答をいただきました。当時は1月下旬で雪が多く現地に行くことは叶いませんでしたが、黒沢龍雄氏のことや現在の温泉跡地の状況などを伺うことができ、無事に北海道立文学館へ回答することができました。

では、北海道立文学館はなぜ蘭越町の黒沢龍雄氏を調べていたのか。彼はいったいどのような人物で誰とどのような親交があったのか。そして黒沢温泉はどこにあり、現在はどうのような状況にあるのか…。「郷土探索への道 黒沢温泉編」として次回以降の花一会図書館便りでお伝えしていきます。

なんと黒沢龍雄氏は、ニセコ町に縁のある著名作家や、皆さんご存じの岩内町出身の画家と友人だったのです…！



次回、郷土探索への道
黒沢温泉編②
「華やかな交友関係と
山奥の仙人生活」
乞うご期待！！

今月のおすすめ本 コーナー



『小樽おやすみ処 カフェ・オリエンタル』

田丸久深 著 (二見書房)

小樽市が舞台の小説。住吉神社や南樽市場など、見知った場所が出てくると何だか嬉しくなるのはご当地小説の良いところ。実生活に役立つ薬膳や漢方の豆知識も豊富。仕事に真摯に向き合うことや、自分や相手を労わる心を思い出させてくれる暖かい読後感。



『マイノリティデザイン』

澤田智洋 著 (ライツ社)

各メディアでも注目されている本書。コピーライターである著者は、視覚障害のある息子が生まれたことをきっかけにマイノリティデザインの世界に飛び込んでいく。誰しもが持つ全ての「弱さ」は社会の「伸びしろ」。今まで見えていなかった光にハッと気づかされるビジネス書である。



『ワンダフル・ライフ』

丸山正樹 著 (光文社)

4つの物語のラストへ向かう構成が見事な社会派ミステリー。現実の出来事や資料を参考にした部分が多く描かれている。異物の排除へ向かう社会の中で、障害を抱える人とその家族の人生、という問いかけるものの重さが多い人の心の扉を開いてくれるのではないかと。



『あえるよ！ 山と森の動物たち』

今泉忠明 著 (朝日出版社)

『ざんねんないきもの事典』で知られる動物学者・今泉忠明さんの新作は、大いなる自然界のしくみに迫る1冊。イラストやマンガにわかりやすい文章。「へえ」「ほお」と頷きながらグイグイ読めてしまいます。これであなたも小さな動物学者に。

新米の季節！

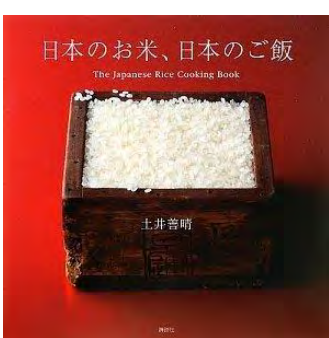
お米にまつわる BOOK

全国にはどんな銘柄が？



『全国お米のこだわり銘柄』
(日本食糧新聞社)

日本を味わうレシピ



『日本のお米、日本のご飯』
土井善晴(講談社)

米粉をおいしく使う



『米粉のパン、麺、おやつ』
大塚せつ子
(インフォマティクス事業部)

コメ作りエンタメ小説！



『シンマイ!』
浜口倫太郎(講談社)

古墳時代のおにぎり!?



『おにぎりの文化史』
横浜市歴史博物館
(河出書房新社)

米-1の過去記録集



『米-1グランプリ
2020記録集』
(北海道蘭越町)